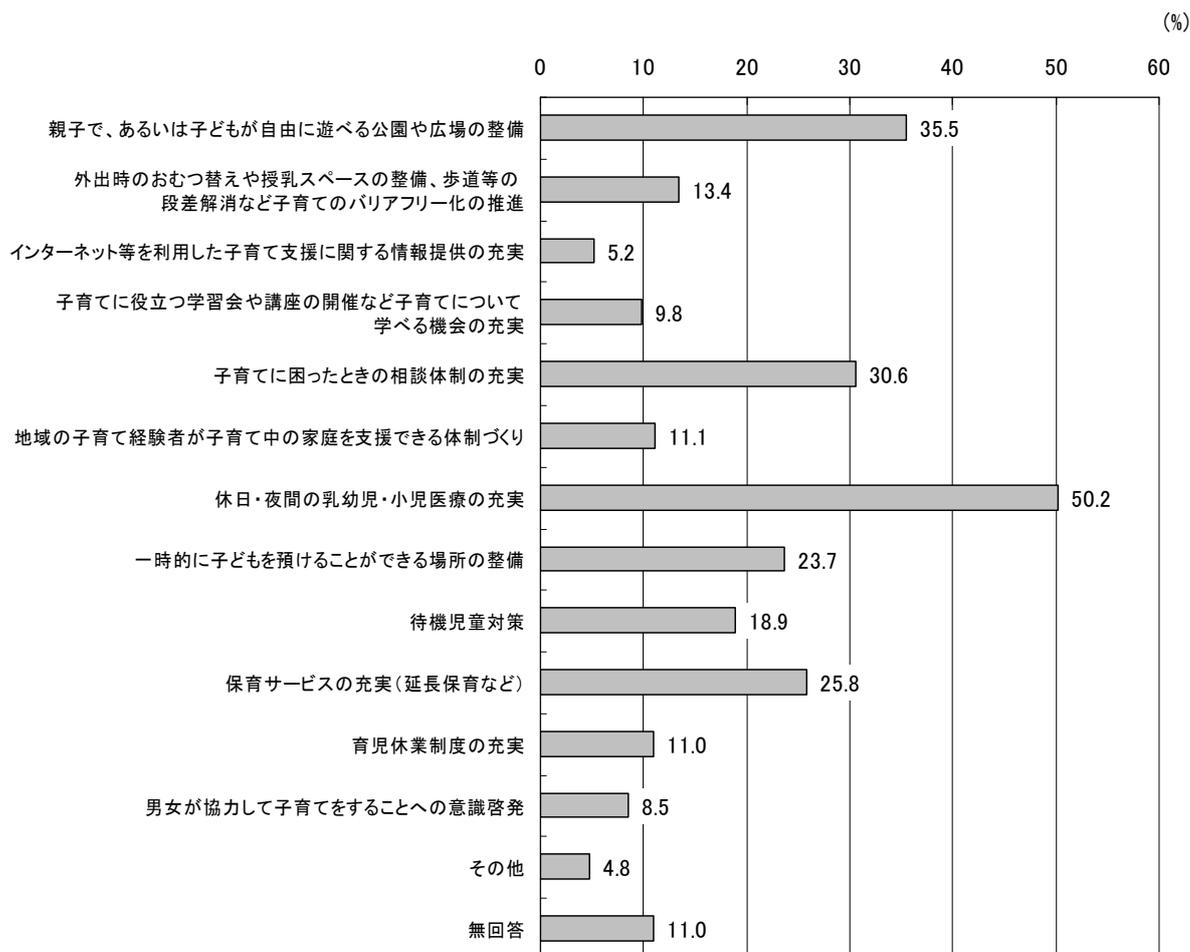


3.3 子育てについて

1) 市に力を入れてほしい子育て対策

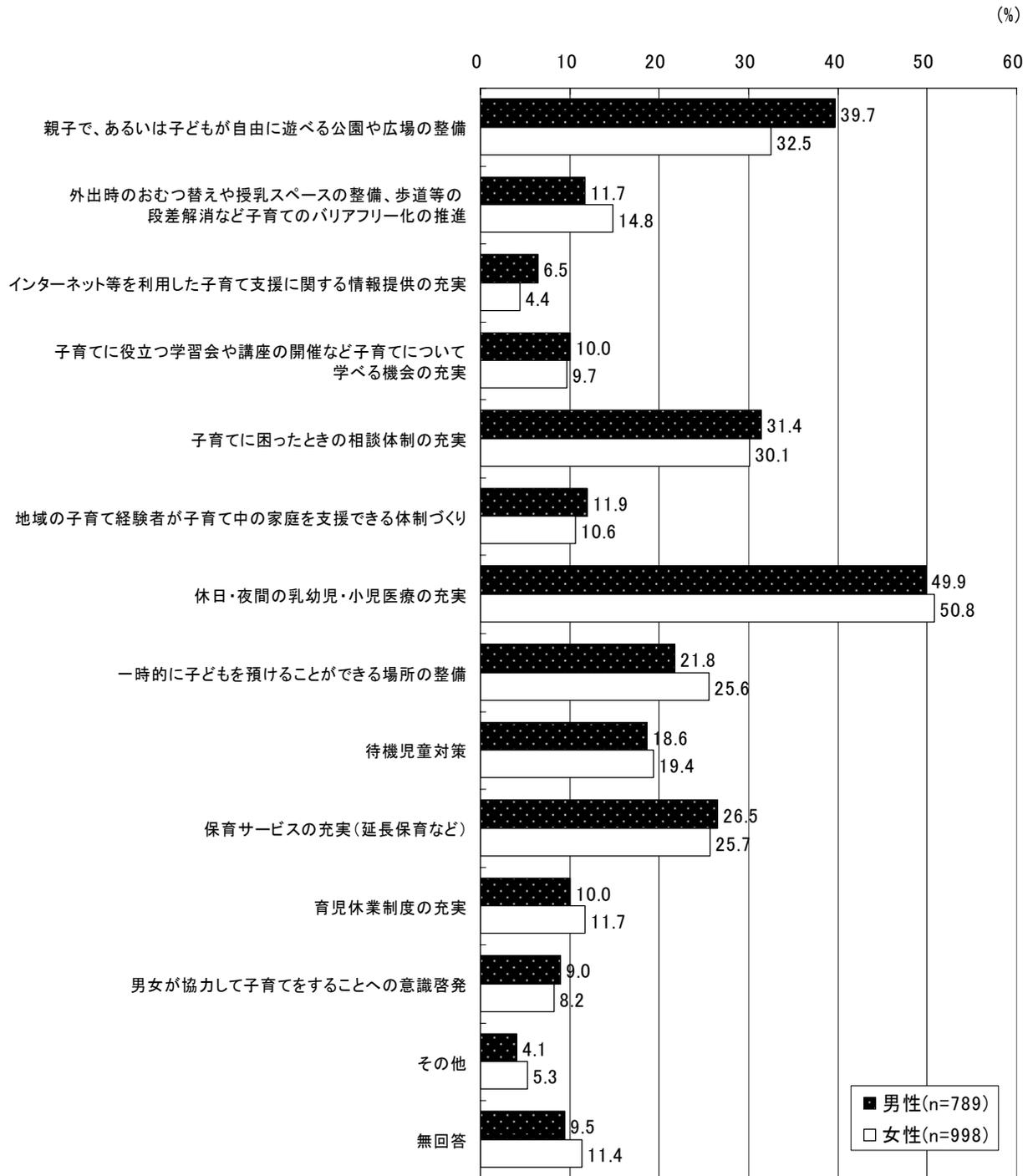
問11 子育て対策として、特に、奈良市に力を入れてほしい対策は何ですか。
(あてはまるもの3つに○)

図3.3.1 市に力を入れてほしい子育て対策【n=1,810】



市に力を入れてほしい子育て対策について、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が50.2%と最も高い。次いで「親子で、あるいは子どもが自由に遊べる公園や広場の整備」が35.5%、「子育てに困ったときの相談体制の充実」が30.6%の順となっている。(図3.3.1)

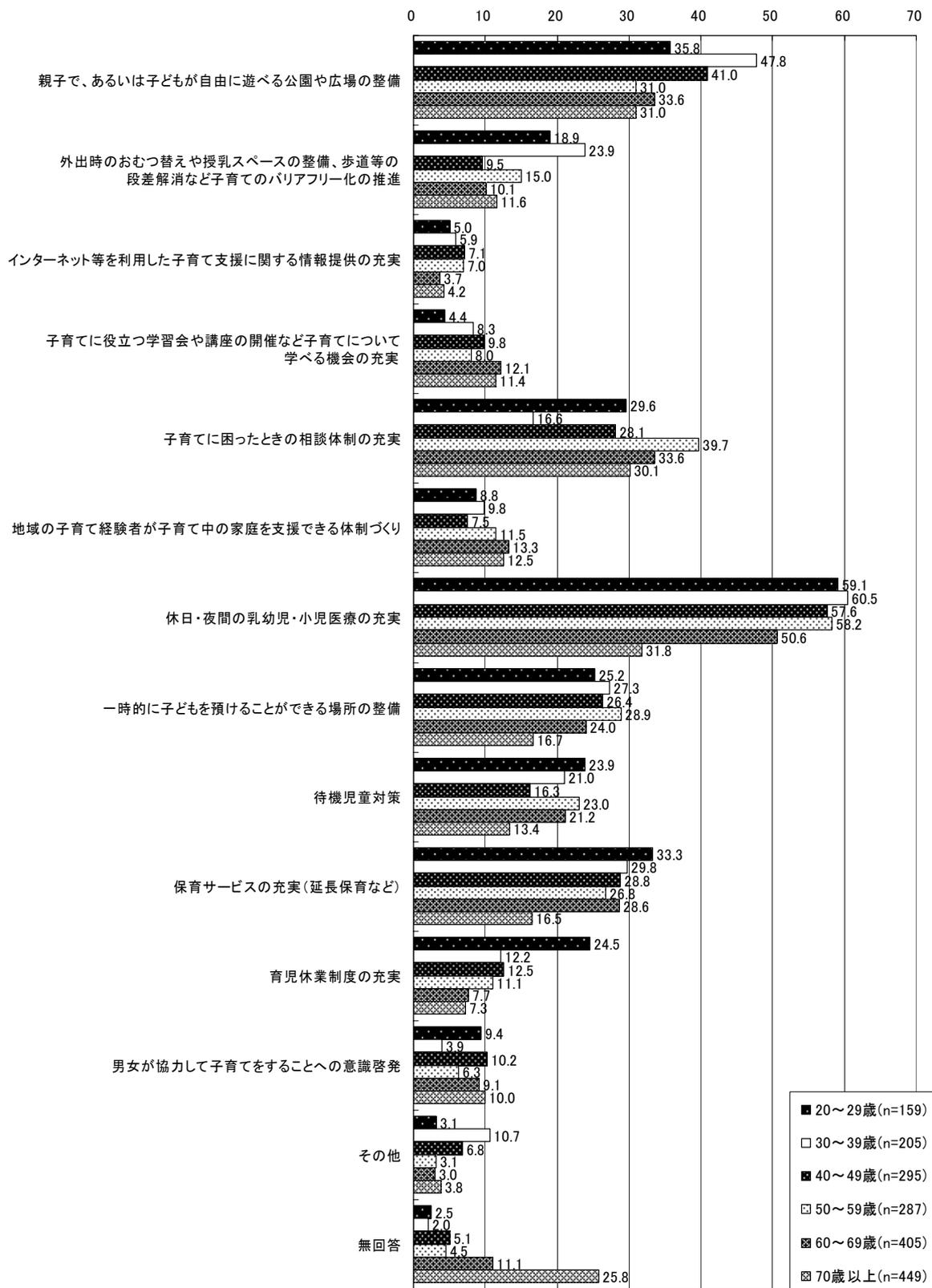
図3.3.1-1 性別 市に力を入れてほしい子育て対策



性別では、男性、女性で大きくは変わらない。(図 3. 3. 1-1)

図3.3.1-2 年齢別 市に力を入れてほしい子育て対策

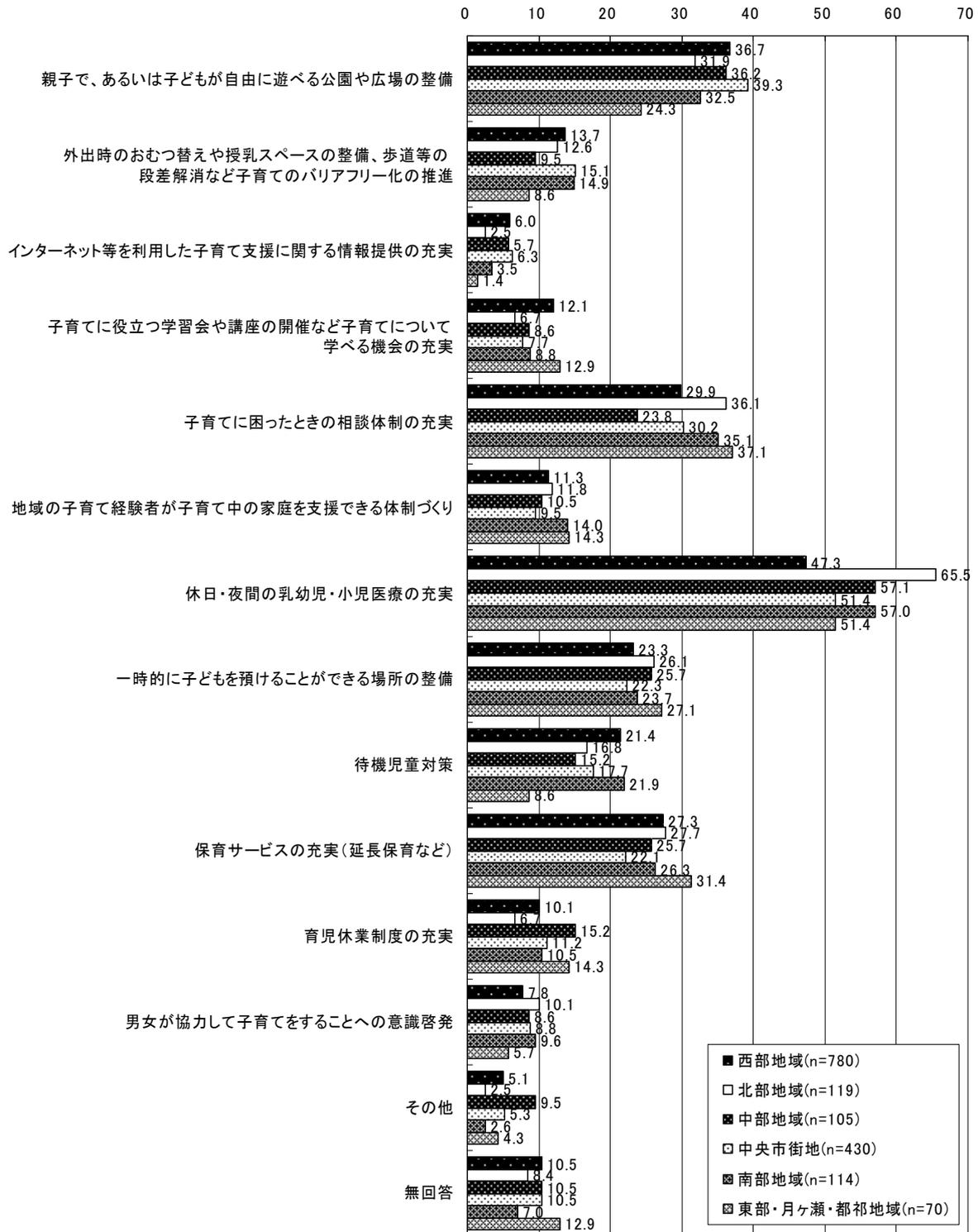
(%)



年齢別では、20歳～59歳で、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が6割前後と高い。また、30～39歳で、「親子で、あるいは子どもが自由に遊べる公園や広場の整備」が5割に近く高い。さらに、50～59歳で「子育てに困ったときの相談体制の充実」が4割近く高いが、30～39歳では2割弱と低い。(図3.3.1-2)

図3.3.1-3 地域別 市に力を入れてほしい子育て対策

(%)

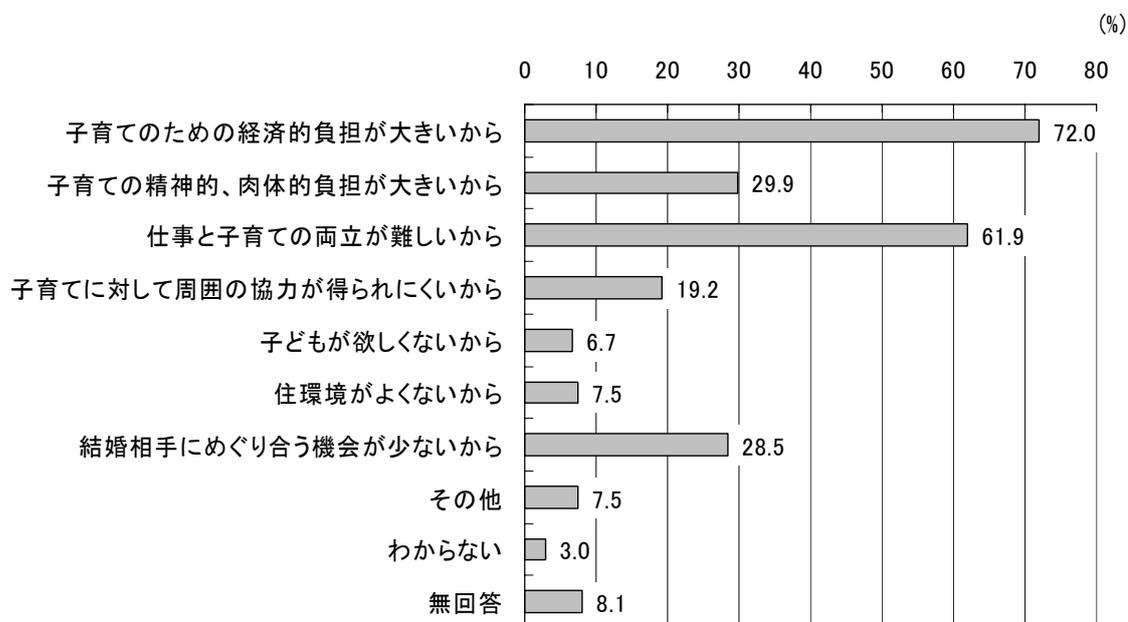


地域別にみると、北部地域で、「休日・夜間の乳幼児・小児医療の充実」が7割近くと高い。
(図 3. 3. 1-3)

2) 市民が感じる少子化の原因

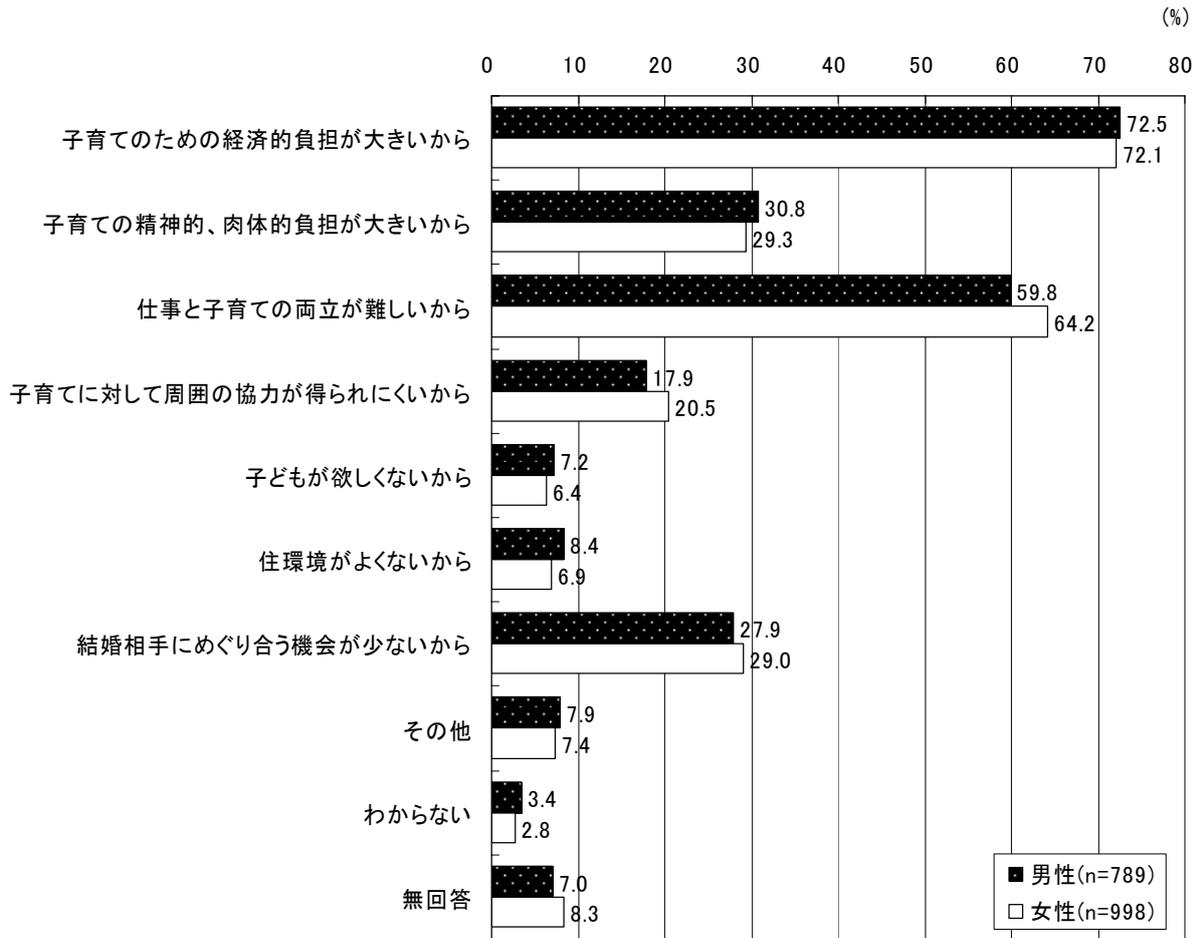
問12 少子化が進んでいると言われていますが、どのようなことが原因だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図3.3.2 少子化の原因【n=1,810】



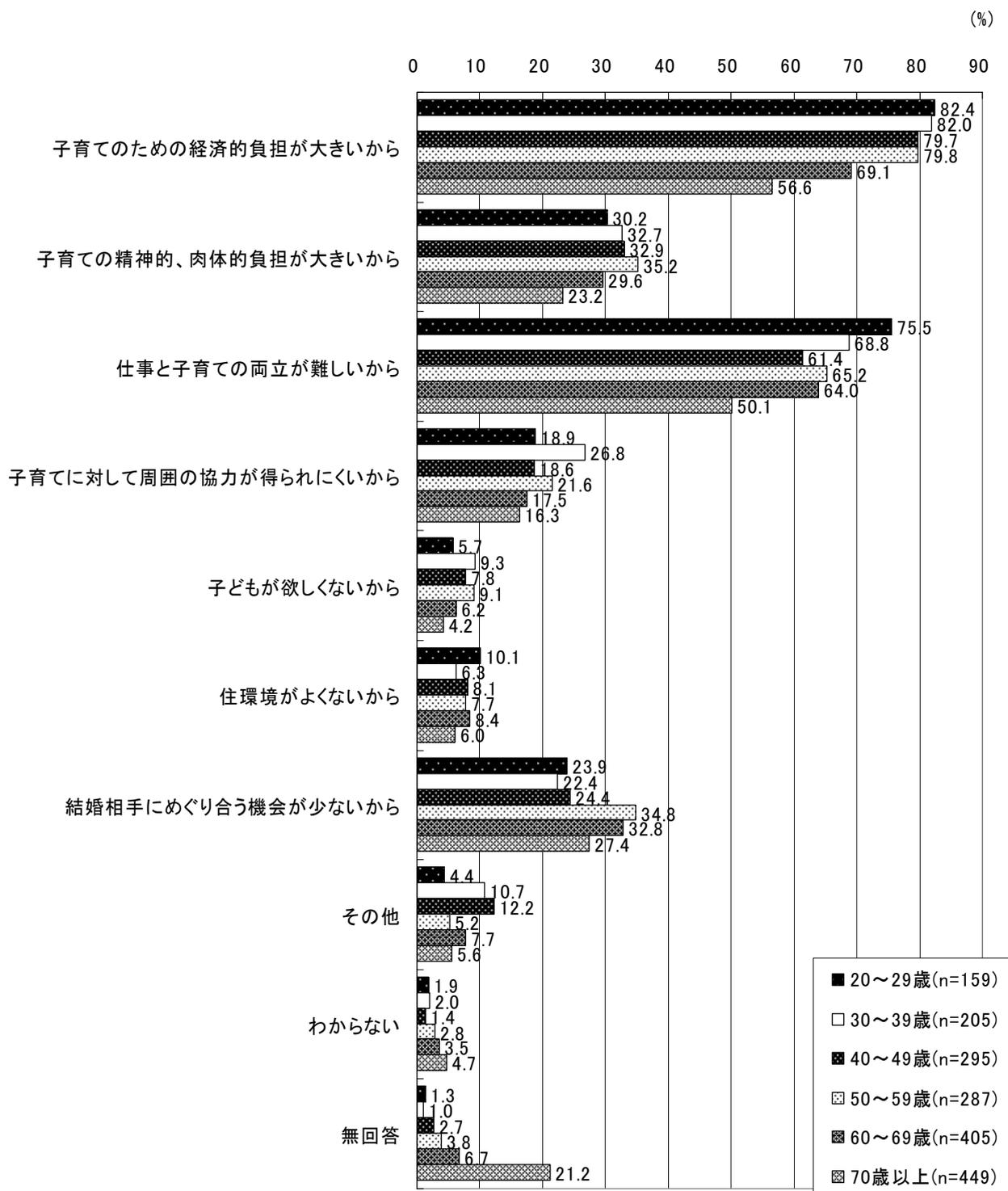
少子化の原因として考えられることについて、「子育てのための経済的負担が大きいから」が72.0%と最も高い。次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」が61.9%となっている。(図3.3.2)

図3.3.2-1 性別 少子化の原因



性別では、全体的に大きな差はない。女性で「仕事と子育ての両立が難しいから」が男性より5%ほど高い。(図 3.3.2-1)

図3.3.2-2 年齢別 少子化の原因

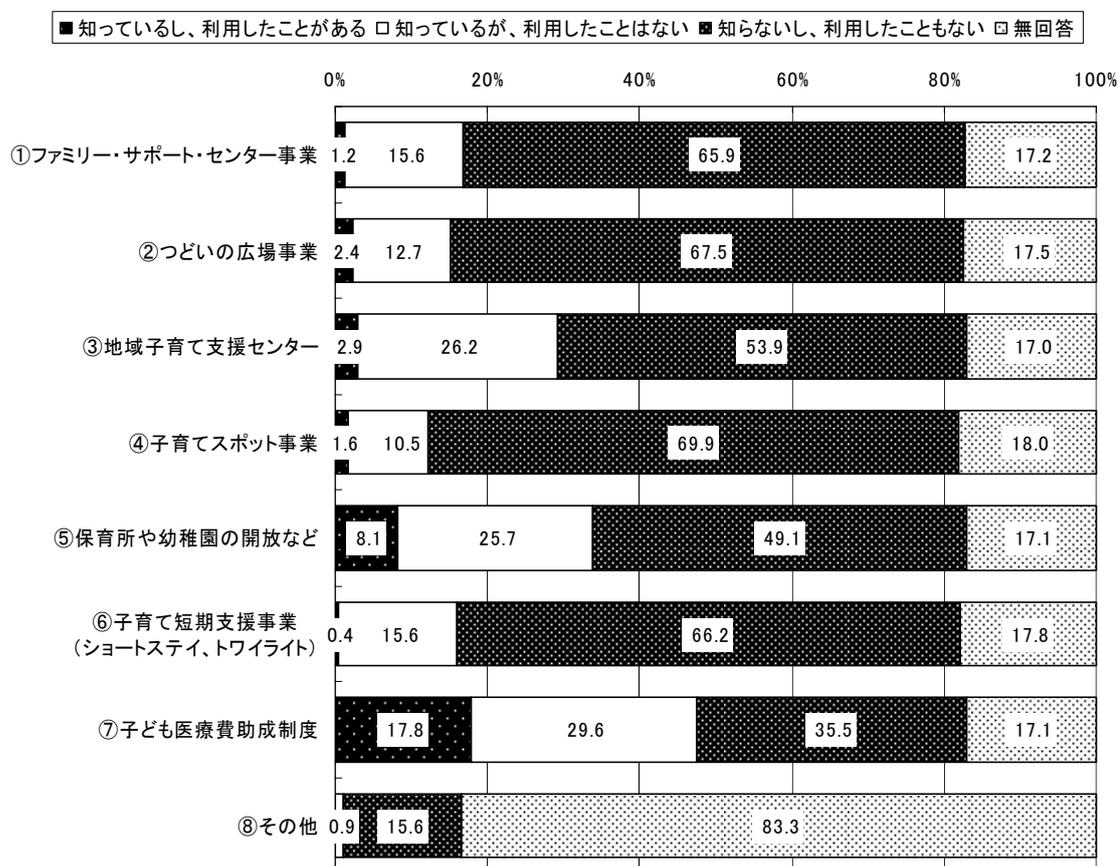


年齢別では、「子育てのための経済的負担が大きいから」が20～59歳で8割前後と高く、年齢が若くなるにつれてこの割合も高くなっている。また、20～29歳で、「仕事と子育ての両立が難しいから」が8割近く、他の年齢に比べ高くなっている。(図3.3.2-2)

3) 子育て支援事業の認知・利用状況

問13 奈良市の子育て支援事業について、次の項目ごとにあてはまる番号を1つ選び、○をつけてください。

図3.3.3 奈良市の子育て支援事業【n=1,810】



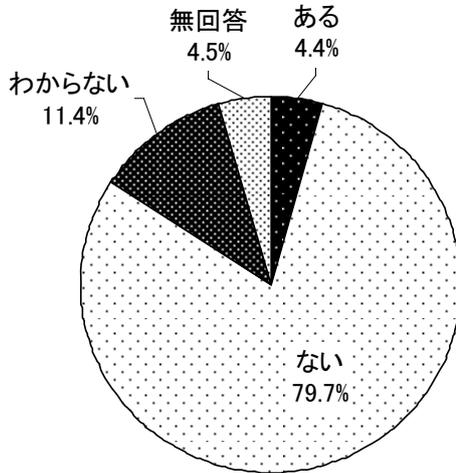
奈良市の子育て支援事業について、「知っているし、利用したことがある」事業は、「子ども医療費助成制度」が17.8%で最も高い。次いで、「保育所や幼稚園の開放など」が8.1%となっている。

「知っているし、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した認知度は、「子ども医療費助成制度」が47.4%と最も高い。次いで、「保育所や幼稚園の開放など」が33.8%、「地域子育て支援センター」が29.1%の順となっている。一方、「子育てスポット事業」が12.1%と最も低い。(図3.3.3)

4) 児童虐待の存在認識

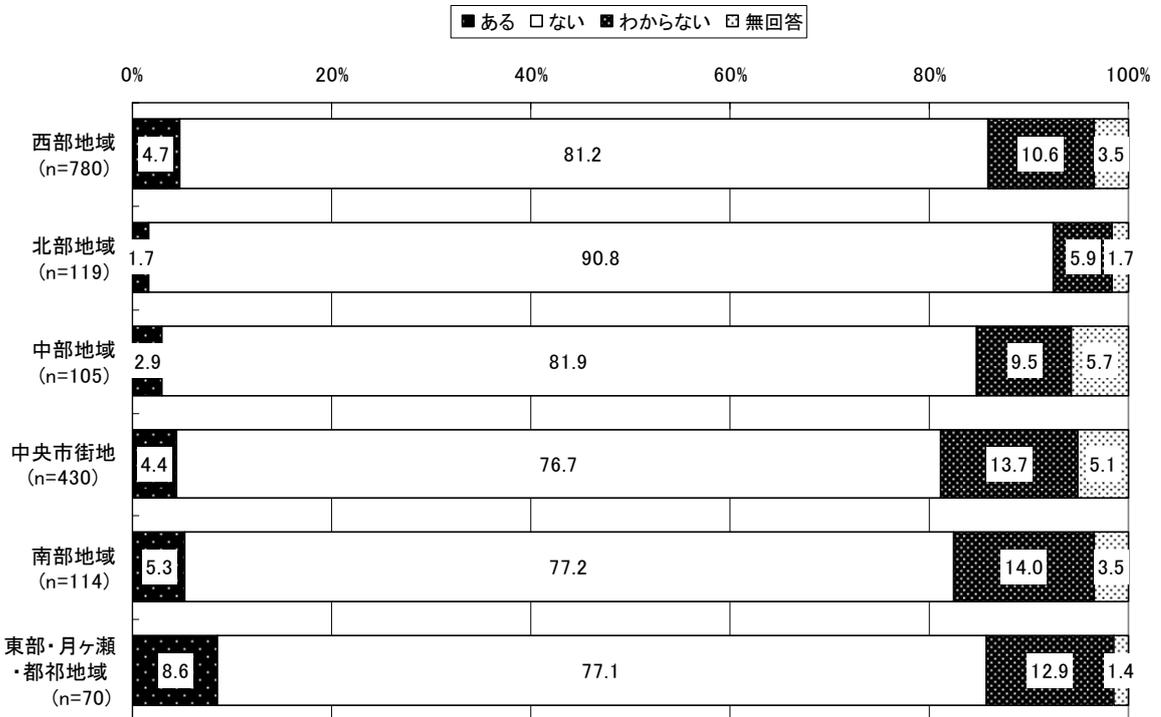
問 1 4 あなたの身近なところで虐待を受けたと思われる子どもを見たり聞いたりしたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

図3.3.4 児童虐待の存在認識【n=1,810】



身近で虐待を受けた子どもを見たり聞いたりしたことについて、「ある」が4.4%、「ない」が79.7%となっている。(図3.3.4)

図3.3.4-1 地域別 児童虐待の存在認識

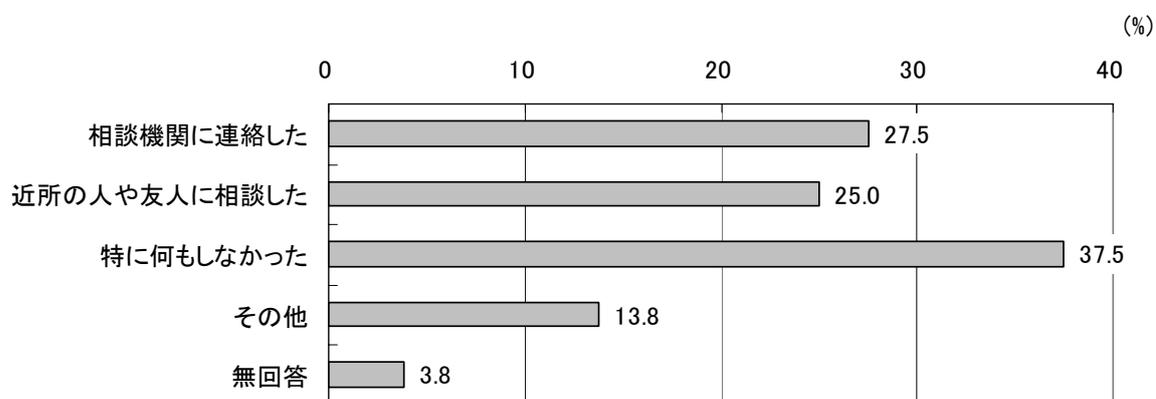


地域別にみると、東部・月ヶ瀬・都祁地域で「ある」が1割に近く、他地域に比べ高い。(図3.3.4-1)

(1) 身近に児童虐待を知ったときの対応

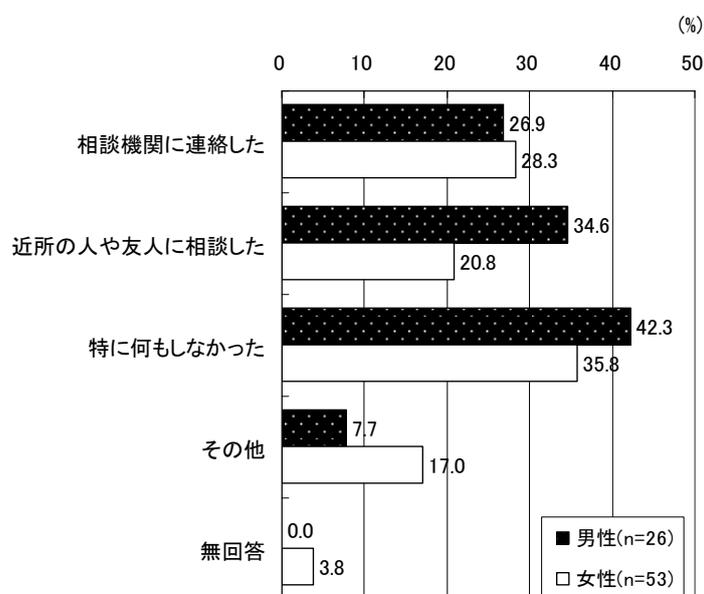
問14-1 問14で「1. ある」を選んだ方にお伺いします。
 あなたはその時、どのような対応をしましたか（あてはまるものすべてに○）

図3.3.4.1 児童虐待を知ったときの対応【n=80】



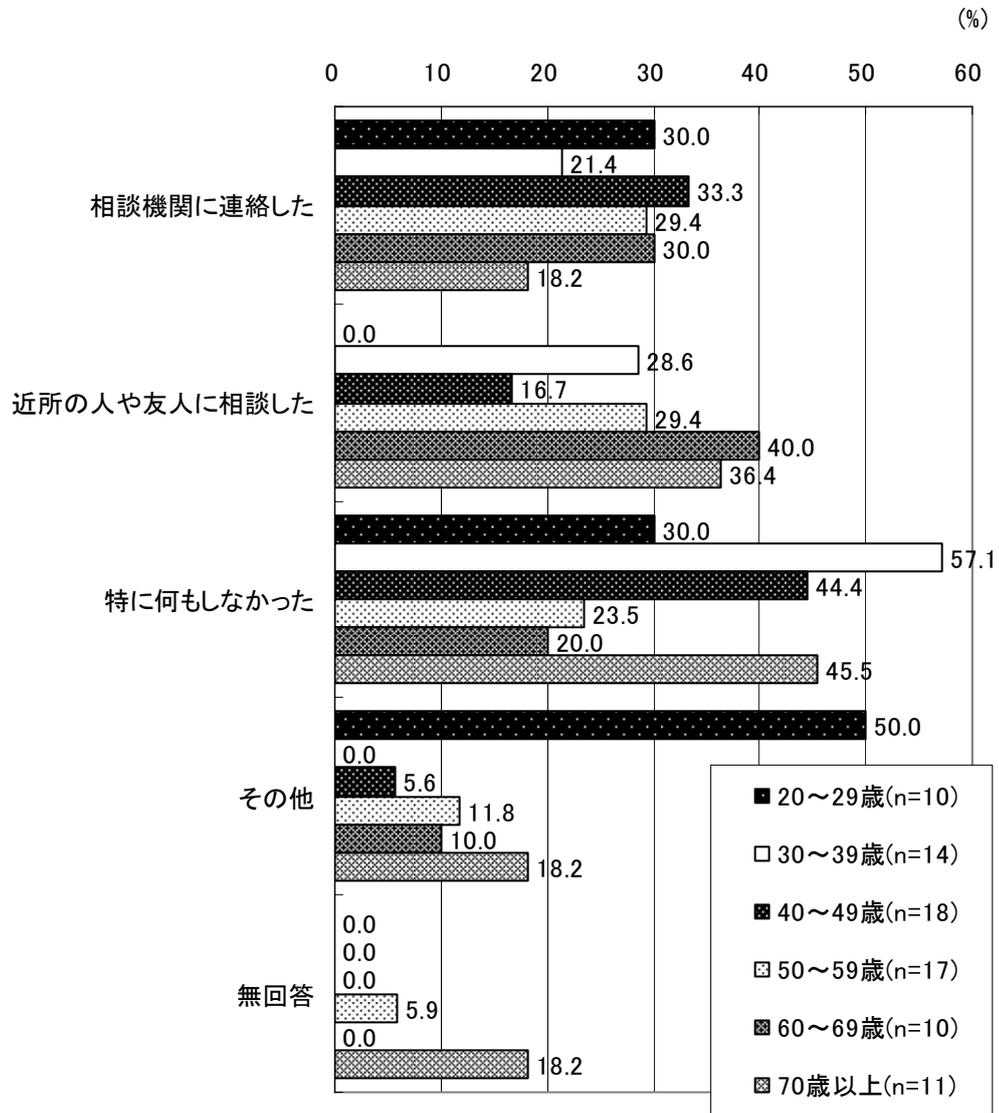
身近で虐待を受けた子どもを見たり聞いたりしたことがある人に、虐待を知ったときの対応について尋ねたところ、「特に何もしなかった」が37.5%で最も高い。次いで、「相談機関に連絡した」が27.5%となっている。（図3.3.4.1）

図3.3.4.1-1 性別 児童虐待を知ったときの対応



性別で見ると、男性で「近所の人や友人に相談した」が、女性より10%以上高い。（nが少ないため参考まで）（図3.3.4.1-1）

図3.3.4.1-2 年齢別 児童虐待を知ったときの対応

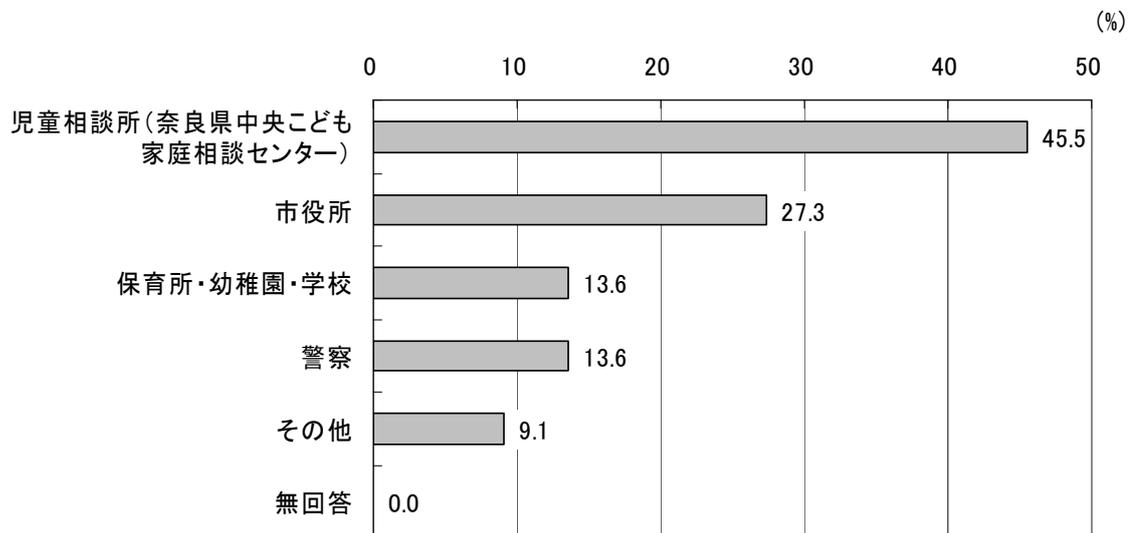


年齢別にみると、30～39歳で「特に何もしなかった」が6割近く、他の年齢に比べ高い。(nが少ないため参考まで) (図 3.3.4.1-2)

(2) 児童虐待を知ったときに連絡した相談機関

問14-2 問14-1で「1. 相談機関に連絡した」を選んだ方にお伺いします。
 どちらに連絡しましたか。(あてはまるものすべてに○)

図3.3.4.2 連絡した相談機関【n=22】



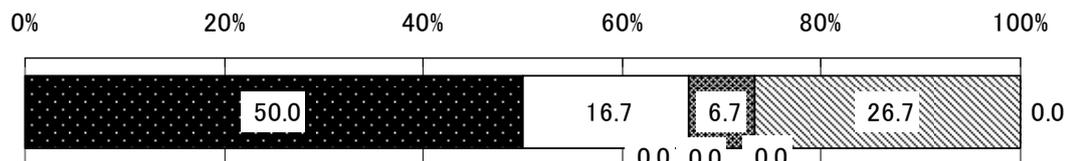
児童虐待を知って相談機関に連絡した人に、連絡した相談機関について尋ねたところ、「児童相談所(奈良県中央こども家庭相談センター)」が45.5%で最も高い。次いで、「市役所」が27.3%となっている。(図3.3.4.2)

(3) 児童虐待を知っても行動しなかった理由

問14-3 問14-1で「3. 特に何もしなかった」を選んだ方にお伺いします。
 それはどうしてですか。(あてはまるもの1つに○)

図3.3.4.3 児童虐待を知っても行動しなかった理由【n=30】

- 虐待かどうかわからなかったから
- 事情を聞かれるなど面倒そうだったから
- 他人の家庭内の問題だと思ったから
- その他
- 連絡したことにより逆恨みされるのが怖かったから
- どこに連絡してよいかわからなかったから
- 自分には関係ないことだと思ったから
- 無回答

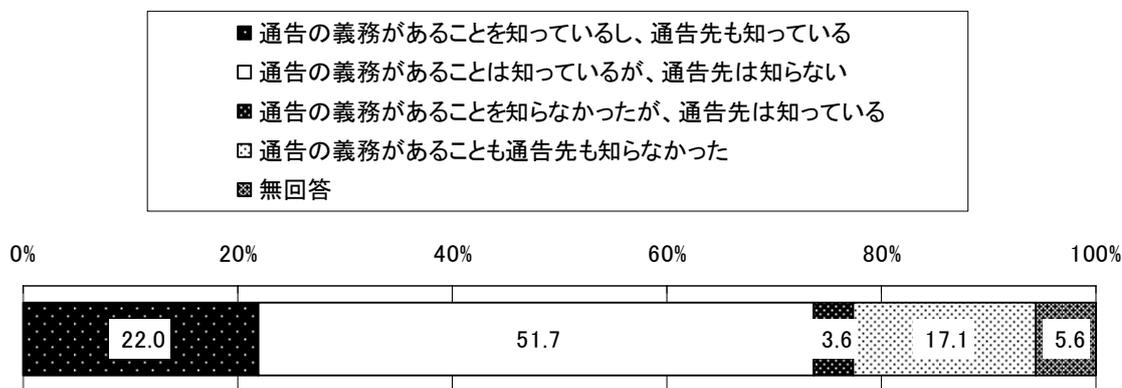


児童虐待を知って特に何もしなかった人に、その理由について尋ねたところ、「虐待かどうかわからなかったから」が50.0%で最も高い。次いで、「連絡したことにより逆恨みされるのが怖かったから」が16.7%となっている。(図3.3.4.3)

5) 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度

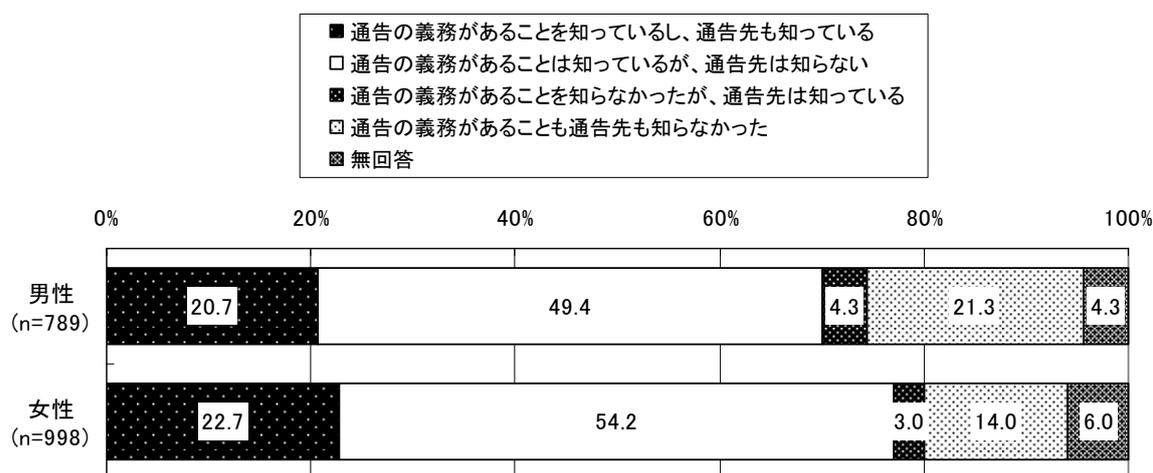
問15 「児童虐待の防止等に関する法律」では、児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、通告・相談することを義務づけていますが、そのことについてご存知ですか。
(あてはまるもの1つに○)

図3.3.5 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度【n=1,810】



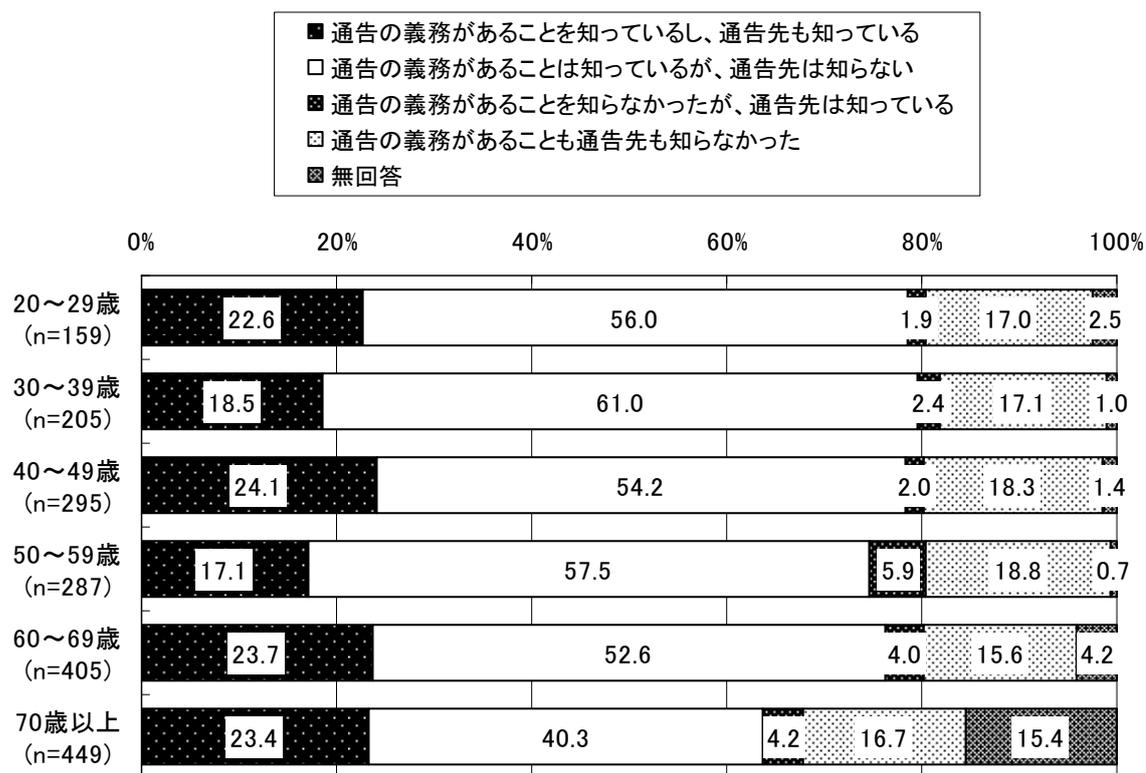
児童虐待の通告・相談の義務づけの周知について、「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が 51.7%で最も高い。次いで、「通告の義務があることを知っているし、通告先も知っている」が 22.0%、「通告の義務があることも通告先も知らなかった」が 17.1%の順となっている。(図 3.3.5)

図3.3.5-1 性別 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度



性別では、男性で女性より「通告の義務があることも通告先も知らなかった」が5%程度高く、「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が5%程度低い。(図 3.3.5-1)

図3.3.5-2 年齢別 児童虐待の通告・相談の義務づけ認知度

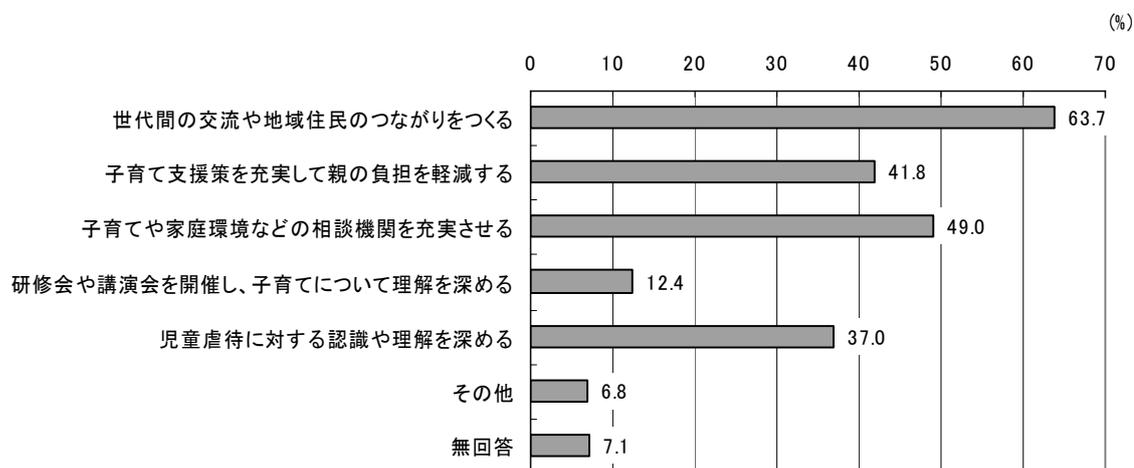


年齢別では、70歳以上で「通告の義務があることは知っているが、通告先は知らない」が4割と低い。(図 3.3.5-2)

6) 児童虐待防止に必要な取り組み

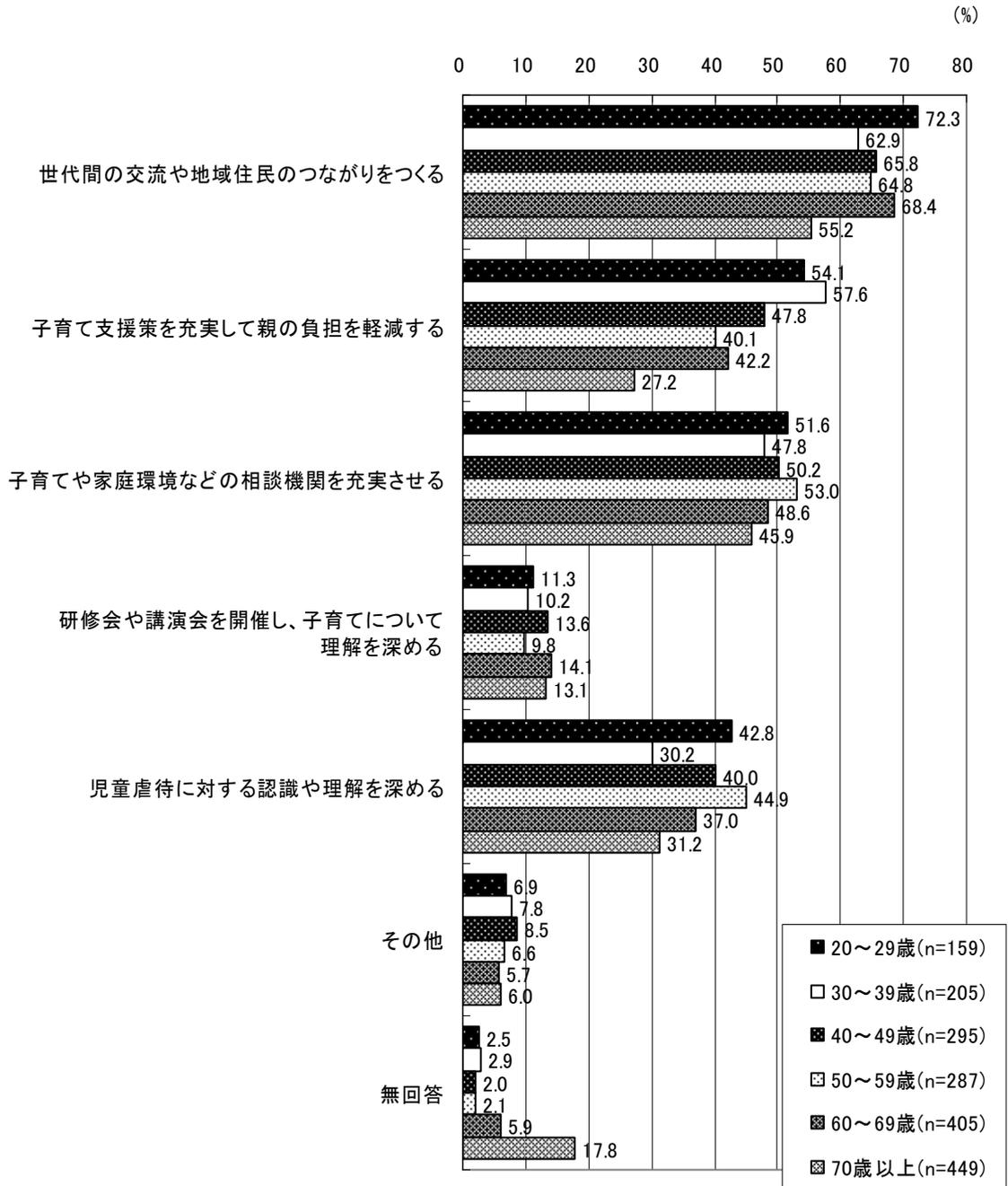
問16 児童虐待を防止するには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図3.3.6 児童虐待防止に必要なこと【n=1,810】



児童虐待防止に必要なことについて、「世代間の交流や地域住民のつながりをつくる」が63.7%で最も高い。次いで、「子育てや家庭環境などの相談機関を充実させる」が49.0%、「子育て支援策を充実して親の負担を軽減する」が41.8%、「児童虐待に対する認識や理解を深める」が37.0%の順となっている。(図3.3.6)

図3.3.6-1 年齢別 児童虐待防止に必要なこと



年齢別では、すべての年代で「世代間の交流や地域住民のつながりをつくる」が最も高い。
 (図 3. 3. 6-1)